



みよし

令和3年 1月20日

文責 久保島 修

☆新たな気持ちで！(´▽`)

2021年(令和3年)がスタートしました。昨年は日本のみならず世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、学校をはじめとして社会全体が大きな打撃を受けました。今もなお、このウイルスへの闘い(それとも「ウイルスとの共存」)は続いておりますが、本校がこうして平穏無事に新年を迎えることができましたことは、ひとえに御家庭の本校教育活動に対する深い理解と協力の賜です。このコロナ禍を乗り越え、今年が昨年以上に豊かな一年となることを心から願ってやみません。



新しい年明けというのは良いものですね。心があらたまるといふか、新しい目標に向かうエネルギーをもらえるといふか、人を前向きな気持ちにさせてくれます。私などは、「捕らぬ狸のなんとやら〜」で過去を顧みず、今年こそ〇〇を克服したい、とか、今年こそ〇〇を始めようとか、想像力が無性にかき立てられる時期でもあります。私のような「捕らぬ狸〜」では残念ですが、子供たちには是非、「ああなるといいなあ」とか「こうなりたい」という想いを持ってもらいたいと思います。まずは、自分を突き動かす「想像」をしてほしいと思います。新年に描いた想いがどの子も大きくなりますように。



(『スーパーカーブーム世代の私にとって『牛』と言ったら、やっぱり『ランボルギーニ』です！(´▽`)！)

さて、暮れの忙しさを家族で頑張り、お正月を家族で楽しく過ごしたことと思います。今度は、暮れの頑張りやお正月の楽しさを思い出しながら、学級の仲間と頑張り楽しい生活を一緒になってつくっていきます。みんなで歩調を合わせて一緒に活動するのは、難しいときもありますが、頑張ってきたり、分かったりしたときのうれしさがより大きくなることは言うまでもありません。みんなで考えたり、計画したり、やってみたりすると、困ったりうまくいかなかったりすることもあります。でもこうした躓きがあるからこそ集団で学ぶという学校教育の価値があるような気がします。みなそれぞれにそれぞれの良さを持った一人一人が集まった集団なのであります。

◎山梨学院高校サッカー部の活躍に思うこと

1月11日(月)『第99回全国高校サッカー選手権』の決勝が行われました。きっとテレビで観戦した人も多かったと思います。

決勝は山梨県代表の山梨学院と青森県代表の青森山田との対戦でした。優勝候補の青森山田に対して山梨学院は優勝を期待されたチームではなかったのですが、勝つことに向かってそれぞれの選手が役割を果たすことによって見事優勝しました。1月13日付けの『山梨日日新聞』では、山梨学院の選手の多くは高校進学の際に、「全国の実力校や強豪校に進学できなかった。」「中学校時代所属していたチームのユースに昇格できなかった。」という挫折を味わった選手が多く、いつかは「見返したい」という想いや、「3年間で見返してやる。逆転してやる」などの「反骨心」が優勝への原動力となったのではないかなという記事が載っていました。山梨学院高校の試合を通じて、最後まであきらめずに、一つのことに向かって仲間を信じ、がんばる事のすばらしさを改めて感じました。



余談になりますが・・・私が高校生の時代の山梨の高校サッカーと言えば『韮崎高校』が黄金期(今もそうですが!)でした。『H2Oトリオ(保坂孝、羽中田昌、大柴剛の3人)』の活躍に熱狂していたことを今でも覚えております。ちなみに『全国高校サッカー選手権大会』において、「5年連続ベスト4以上」という偉業を成し遂げたチームは戦後たった3校しか存在せず、同大会で優勝6回を誇る長崎県立国見高校と、山梨県立韮崎高校と、今回準優勝の学校法人青森山田学園の3校だけです。



※社会の進歩と私たちの生活

現代社会は高度情報化社会、国際化社会等の様々な呼び方をされています。今日までの進歩の歴史は、科学技術の進歩の歴史と言ってもよいかもしれません。250年以上も前の蒸気機関の発明は、人間の行動範囲を飛躍的に広げました。蒸気機関は人々を遠くへ運ぶ汽船や列車をつくり出しました。人々は、それまでよりもずっと短い時間で長い距離を移動することができるようになりました。そして、電気の発明により夜が昼間のようにになり、人々は24時間行動することが可能になりました。



今の私たちの生活を見ますと、私が子供の頃に比べると大きく変わってきています。私の古い記憶をたどって、子供の頃の様子について覚えていることを具体的にいくつか書いてみます。きっと、子供たちからは、「ふる〜い!」「昭和ですね。」「えーっ、何それ?」と言われそうですが。

- ① お風呂沸かしは薪で行う。(しかも、五右衛門〈ごえもん〉風呂)
- ② お風呂とトイレは別棟のため家から一端出て用をたしていた。(夜のトイレに行くのは怖かったです。また、冬は湯上がりが大変寒かったです)
- ③ 次の日に着る服は枕元にたたんで、置いておく。(戦時中の名残かもしれませんが、祖父母にしつけられていました)
- ④ 洗濯機には脱水機能が付いていないので、洗濯機に付いていた2つのゴムローラーをハンドルで回し、洗濯物をはさんで水分をしぼった。(ゴムローラーを回すと衣類が、ほぼ平たくなって出てきました)
- ⑤ テレビは白黒で、NHK2局の他に民放1局しか映らなかった。(スイッチONにしてから映るまでに1分近く待ったような記憶があります。)
- ⑥ 馬と牛を飼っていました(朝早く〈4時頃〉餌を与えていたのを覚えています。我が家の馬は、信玄公まつりに二十四将〈誰かは忘れましたが〉の愛馬としても出演しました) などなど



以上が昭和40年代前半頃(半世紀程前)の記憶の一部です。これらだけでも、現代とはかけ離れた生活だったということがわかりいただけるでしょう。世の中が日進月歩、時代が進むと共に便利な生活を送ることができるようになってきました。また、遠く感じていた外国も身近に感じられるようになりました。しかし、人として大切なことを忘れていたり、便利なものに頼りすぎたりしたとき、新たな課題や問題が発生することが危惧されます。「故き(ふるき)を温ね(たずね)新しきを知る」の言葉の通り、子供たちにも昔のことや古い事柄にふれながら、新しい技術・知識を身につけたり新たな発見をしたりしてほしいと思います。そのためにも私たち大人の責任は大きいものがあります。そのような意味からも、機会ある毎に親や祖父母、地域の方々で少しでも古い話を子供たちにしていくことも大切なことだと思います。

本校では、3年生の社会科「かわる道具とくらし」の単元で県立博物館の先生を招き、昔の道具について学ぶ、「出前授業」を予定しております。



~~~~~ 学校生活の様子よ! ~~~~~

「書きぞめ大会」(1月15日)[全校]



1月15日(金)に、「書きぞめ大会」を実施しました。

児童たちは2学期の後半から練習を始め、冬休みにも一生懸命に練習し、今日はその成果を発揮する大会でした。

課題は、1年生:硬筆「はる」、2年生:硬筆「おひさま」、3年生:毛筆「とり」、4年生:毛筆「全力」、5年生:毛筆「雪どけ水」、6年生:毛筆「令月の風」です。

どの学年の児童も集中して頑張ったので、良い作品がたくさん仕上がりました!(^^)!

☆お知らせとお願い☆

本校では、2月に次年度の児童会役員と5年生が中心となって、「6年生を送る会」が行われています。毎年この日は、学校開放日として保護者や地域の皆様に参観を呼びかけていましたが、今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、学校開放日とはせず、児童と職員のみのお会といたします。参観を楽しみにしていた保護者、地域の皆様におかれましては、何とぞ感染症予防の趣旨を御理解いただき、御協力をお願いいたします。